

□■受験対策ミニ講座 4号 2019□■

学習を始めると知らない言葉に出会うことがあるかもしれません。でも大丈夫！知らないからこそ学ぶのです。秋の夜長を活用して、じっくり取り組んでいきましょう。

【29回 23 現代社会と福祉】

OECDの「より良い暮らしイニシアチブ」で用いられる「より良い暮らし指標」(Better Life Index :BLI)の内容として正しいものを1つ選びなさい。

- 1 人々の幸福を形成する多様な側面に着目して「より良い暮らし」を測定するための枠組みを提示した。
- 2 非経済的幸福よりも経済的幸福を重視している。
- 3 就学、就職、結婚、退職、老後などに関する幸福度は性別によって左右されないとしている。
- 4 職場における生活の質と個人の総合的幸福との間には関連性がないとされている。
- 5 人々の幸福を形成する諸側面の相対的重要性は、個人や国によって異なることはないとしている。

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【About the OECD】

今回の過去問の OECD 経済協力開発機構 Organisation for Economic Co-operation and Development は、現在 36 各国が加盟する「世界最大のシンクタンク」と言われる国際機関です。

1948 年、第二次大戦後の欧州復興のためにアメリカが提案したマーシャル・プランの受け入れ体制として、OEEC 欧州経済協力機構が設置されました。欧州の復興に伴い 1961 年、各国が自由主義経済の発展のために協力を行う機構として OECD に改組され、日本も 1964 年東京オリンピックの年に加盟して「先進国の仲間入りをした」というわけです。

OECD は経済成長・途上国援助・自由貿易の拡大を目的として先進諸国間の意見交換や政策調整を行い、報告書や勧告を発表するなど、現在もシンクタンクとして活発に活動を続けています。OECD には国連機関や世界銀行などもオブザーバーを派遣しており、最近ではエネルギー、環境問題なども取り扱うなど、国際関係や各国の政策立案に大きな影響力を持っています。

2011 年、OECD のプロジェクト「より良い暮らしイニシアチブ」は人々の幸福(well-being)に関するガイドラインを発表しました。「主観的幸福(生活満足度)」を重要な要素とし、「所得、仕事、住居、健康、ワークライフバランス、教育、社会とのつながり、市民参加、環境の質、生活の安全」といった側面について社会の進歩を測るとしています。「より良い暮らし指標 BLI」は、GDP 国内総生産にかわる社会の幸福度を測る指標として用いられています。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【29回 23：解説と正解】

1o

- 2× 非経済的幸福と経済的幸福の両方を重視することとされています。
- 3× 性別による幸福度の違いが大いにあるところから、ジェンダー研究が進められています。
- 4× 職場における生活の質は幸福度指標の重要因子とされています
- 5× 幸福度指標の全てに渡って秀でた国はなく、政策の優先課題は国によって異なると指摘されています。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus